

「今後の教育を考える集い」から



児童・生徒数が減少する中、伯耆町の子どもたちのためにどのような教育環境を整えるべきかを話し合うため、教育委員会とPTA協議会が合同で、今後の教育を考える集いを、2月28日に鬼の館で開催し、約300人が参加しました。

町では、今後の教育のあり方を検討するため、平成20年2月に教育関係者や保護者、地域住民による学校教育検討会を発足しました。検討会では、アンケート調査や17回の協議を重ね、その結果を答申として平成21年7月に教育委員会に提言しました。昨年末には、各小学校区で答申についての意見交換会を開催し、保護者や地域住民のみなさんから多くのご意見をいただきました。

また、答申を受け、町内の学校の教員と学識経験者などによる学校教育専門委員会を立ち上げ、答申で示された検討課題や意見交換会での意見を加味し、今後の教育のあり方について具体的な検討課題を、次の4点にまとめました。

具体的検討課題

- ①伯耆町における小中一貫教育
- ②小学校統合と分校化
- ③中学校統合
- ④耐震補強工事などの費用

集いでは、学校教育専門委員会から、具体的検討課題の調査分析結果が詳細に報告されたほか、「小中一貫教育実践校から」と題して、鳥取市立湖南学園の木下公明校長から、実践例の紹介がありました。

最後の意見交換会で参加者からは、「兄弟が一緒に過ごしてほしいので、分校化は反対」「小中学校が町で一つになると、通学距離がかなりのものになり、小さな子どもには無理がある」「小規模だと、学級編制による人間関係への配慮ができなくなるのでは」「生徒が少ないと、部活ができなくなるのでは」「部活が遠くなる」と、部活が出来なくなることも考えられる「などの様々な意見が出されました。

今後、この具体的検討課題について、各小中学校や保育所の保護者のみなさんをはじめ、地域住民のみなさんのご意見を伺い、今年9月を目途に教育委員会としての方針が決定される予定です。今後の伯耆町教育のあり方について、多くの方のみなさんに関心を持っていただきますようお願いいたします。

懐かしく温かい地域のお祭り

だんだんまつり、ふるさとまつり、たたらまつり

1年間の活動やその成果を発表するお祭りが、今年も2月の下旬から各地域で開催され、大勢の人で賑わいました。



だんだんまつり

だんだんまつり
(文化センター 2月20日、21日)
だんだんまつりは、ちぎり絵教室・人權教室など、地域住民が文化センターで行っている様々な活動を、多くの人たちに知ってもらおうと、年に1回開かれています。

会場の1階には、サークルなどの作品が展示され、2階では、ぜんざいやぼてぼて茶などがふるまわれ、訪れた人たちは会話を楽しみながらおいしそうに味わっていました。

ふるさとまつり (日光公民館 2月27日、28日)

毎年恒例の特産品販売コーナーには、手打ちそばや、お菓子やジャム、豆腐などの加工品がずらりと並びました。展示コーナーでは、公民館事業で作成したエコバックやブリザーブドフラワー、日光小学校児童の陶芸作品や自由研究、絵画なども展示され、訪れた人は熱心に鑑賞していました。

初日の夜には竹灯籠の点灯や神楽も行われ、地域をあげての楽しい祭りとなりました。



ふるさとまつり

たたらまつり
(二部公民館 2月27日、28日、3月1日)
たたら会館では、二部保育所園児や二部小学校児童が描いた絵画をはじめ、地区住民や同好会が作成した生け花や水墨画といった様々な作品が会場いっぱいに展示されました。

また、公民館2階では、「今よみがえる古布の世界」と題して、羽織で作った作衣や子どもの祝い着を再利用したドレスなど、和服をリメイクした作品の特別展も行われました。

屋外では、地元の野菜をふんだんに使ったきのこ汁の無料サービスや、乾し椎茸の粉入りの餅がつかれ、威勢のよいかげ声が響き渡っていました。



たたらまつり



まちなわだいの募集

【問合せ先】
地域再生戦略課
町づくり推進室
☎68-3113